

## 「子どもの生活状況等に関する調査」結果報告書

(生活保護世帯、ひとり親世帯の小・中学生)

## 今回の実態調査から見える傾向

## 《子どもの状況》

- おおむね、登校はできており、学校へ行くことを楽しいと感じている  
《P3 問5》《P9 問10》
- 起床・就寝時間は、府内・市内の小・中学生と比較して、大きく相違していない  
《P12 問11》
- ゲーム機やスマートフォンの保有は、半数で、その使用時間は、府内・市内の小・中学生と比較して短い  
《P14 問14》《P16 問16》《P17 問17》
- 学校以外での日常の学習時間は、府内・市内の小・中学生と比較して短い  
《P5 問7》
- 読書習慣が身に付いていない傾向があり、新聞やニュースに関心が少ない  
《P20 問20》《P18 問19》《P19 問19》
- 朝食や読書習慣が身に付いている子どもは、成績が良好である  
※ 成績は保護者の主観による5段階評価  
《P47》《P4 問6とP12 問12》《P4 問6とP20.21 問20》
- 成績が低い子どもの方が、自己肯定感が低い  
《P38》《P4 問6とP22.23 問22》
- 成績が低い子どもの方が、将来の夢や希望を持っている割合が低い  
《P39》《P4 問6とP23.24 問23》
- 自己肯定感、将来の夢や希望を持つ割合が中学生になると低くなる  
《P24 問23》

## 《保護者の状況》

- 9割が就業しているが、パート・アルバイト等非正規の勤務が多い  
《P29 問33》《P30 問33》
- 世帯収入全体でも約3割が年収150万円未満となっている  
《P32 問37》
- 経済協力開発機構（OECD）が示す貧困の基準に約7割が該当している  
《P32 問37》
- 保護者は、子どもの教育費や進学について、悩みを抱えている  
《P24.25 問25》

## 考 察

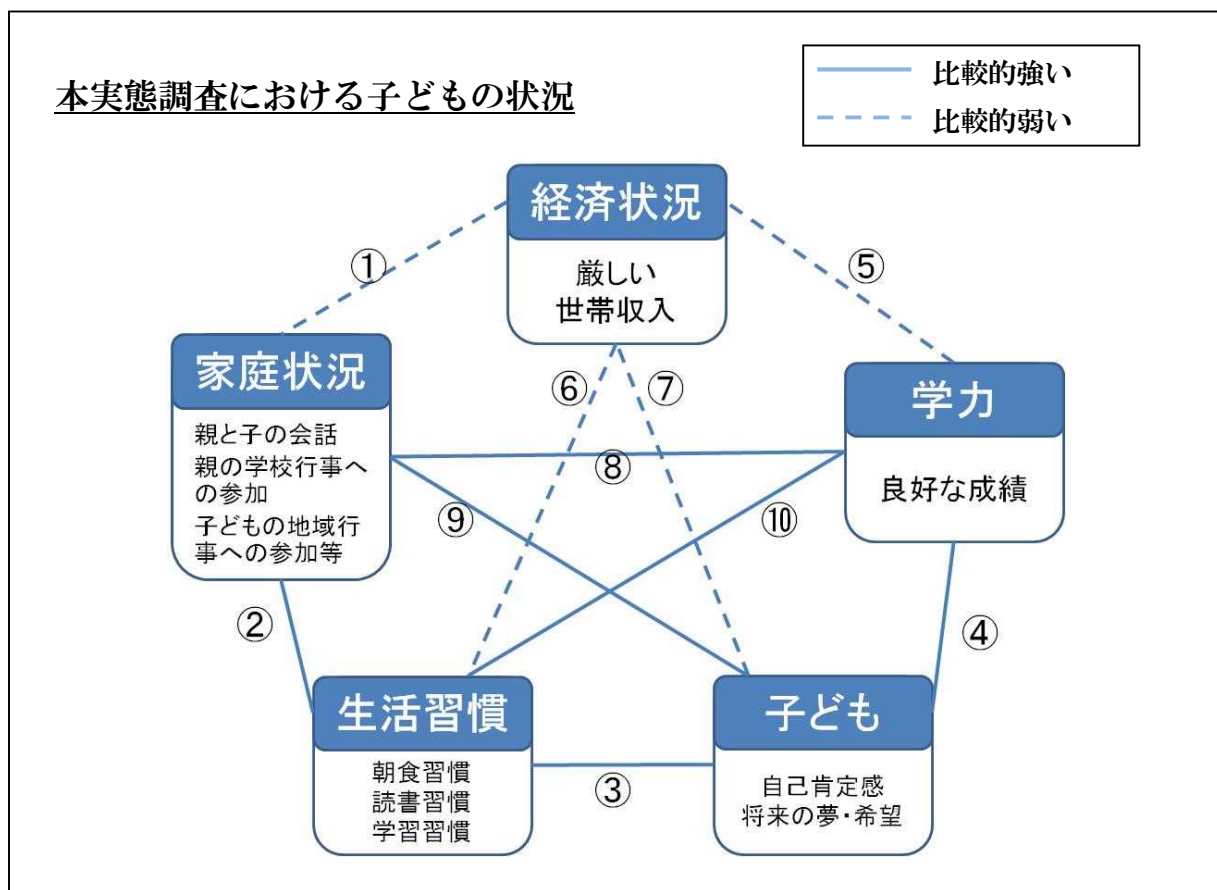
保護者の9割が仕事に就いているが、パート・アルバイト等非正規の勤務が多く、世帯収入全体でも約3割が年収150万円未満となっており、世帯の経済状況は、厳しい状況が見受けられる。

経済協力開発機構（OECD）が示す貧困の基準に約7割が該当しており、ゆとりや余裕がない生活の中で、子どもを育てている状況がある。

このような状況の中で、保護者の悩みの多くは、子どもの教育費や進学のこととなっている。

子どもの状況については、学校以外での日常の学習時間が短い、読書習慣が身に付いていない、新聞やニュースに関心が少ないなどの傾向は見受けられる。一方、世帯の経済状況により、学力が低かったり、生活習慣が大きく乱れている訳でもない。むしろ、親との会話、読書や学習習慣等を通して、生活習慣を定着させることで、成績を高め、自己肯定感を維持していることが見受けられ、「子ども達が頑張っている」状況が推察できる。

子ども達が、進学や就職など将来に夢や希望をもって成長に繋がるよう、行政として、「子ども達の頑張り」や世帯に対して、生活習慣がしっかりと確立できる支援について考えていく必要がある。



## 相関関係図 クロス集計資料

- ① **経済状況と家庭の状況** 《P33 P26 問 28 と P32 問 37》  
世帯の収入と家庭での会話の状況について (クロス集計)  
世帯収入によって、会話の状況が大きく変わることはない。
- ② **家庭の状況と子どもの生活習慣の状況** 《P34 P5 問 7 と P26 問 28》  
家庭での会話と勉強時間の状況について (クロス集計)  
保護者との会話が多い方が、学習時間が長く、学習習慣が身に付いている。
- ③ **生活習慣と子どもの状況** 《P35, 36, 37》  
読書習慣と子どもの自己肯定感について (クロス集計)  
《P20, 21 問 20 と P22, 23 問 22》  
読書習慣が身に付いている方が、自己肯定感が高い  
  
勉強時間と子どもの自己肯定感について (クロス集計)  
《P5 問 7 と P22, 23 問 22》  
学習習慣が身に付いている方が、自己肯定感が高い  
  
勉強時間と将来の夢や希望の状況について (クロス集計)  
《P5 問 7 と P23, 24 問 23》  
学習習慣が身に付いている方が、将来の夢や希望を持っている。
- ④ **子どもの状況と学力の状況** 《P38, 39》  
子どもの自己肯定感と成績の状況について (クロス集計)  
《P4 問 6 と P22, 23 問 22》  
成績が低い子どもの方が、自己肯定感は、低い傾向にある。  
  
成績と将来の夢や希望について (クロス集計)  
《P4 問 6 と P23, 24 問 23》  
成績が低い子どもの方が、将来の夢・希望を持っていない傾向にある。
- ⑤ **経済状況と学力の状況** 《P40 P4 問 6 と P32 問 37》  
世帯収入と子どもの成績の状況について (クロス集計)  
小学生低学年・高学年・中学生を通して、「まあまあ良好」「普通」の割合は、約 7 割～8 割を占めている。

- ⑥ **経済状況と生活習慣の状況** 《P41 P20, 21 問 20 と P32 問 37》  
世帯収入と読書時間の状況について (クロス集計)  
小学低学年・高学年・中学生を通して、読書時間が大きく変わることはない。
- ⑦ **経済状況と子どもの状況** 《P42, 43》  
世帯収入と子どもの自己肯定感について (クロス集計)  
《P22, 23 問 22 と P32 問 37》  
小学低学年・高学年・中学生を通して、「感じている・どちらかといえ  
ば感じている」の割合は、約7割を占めている。
- 世帯収入と子どもの将来の夢や希望について(クロス集計)  
《P23, 24 問 23 と P32 問 37》  
小学低学年では、「持っている」の割合(約4割)と高いが、小学高学  
年から中学生になるにつれて、「持っている」の割合(約2割)と低く  
なっていく傾向がある。
- ⑧ **家庭の状況と学力の状況** 《P44 P4 問 6 と P26 問 28》  
家庭での会話と子どもの成績の状況について (クロス集計)  
家庭での会話が少ない方が、「やや悪い」「かなり悪い」の割合が高い。
- ⑨ **家庭の状況と子どもの状況** 《P45 P22, 23 問 22 と P26 問 28》  
家庭での会話と子どもの自己肯定感の状況について (クロス集計)  
家庭での会話が多い方が、自己肯定感が高い。
- ⑩ **生活習慣と学力の状況** 《P47》  
朝食習慣と子どもの成績について (クロス集計)  
《P4 問 6 と P12, 13, 14 問 12》  
朝食習慣がある方が「かなり良好」「まあまあ良好」の割合が高い。
- 読書習慣と子どもの成績について (クロス集計)  
《P4 問 6 と P20, 21 問 20》  
小学生では、読書習慣のある方が、「かなり良好」「まあまあ良好」の  
割合が高い。